

“川口淳一郎氏による2018年度文化講演会を開催”

2018年5月29日（火）、姫路市文化センター小ホールに、500名近くの聴講者を集め、国立研究開発法人宇宙研究開発機構（JAXA）で小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクトマネージャーを務めた川口淳一郎氏を講師に招いて、当財団主催の文化講演会を開催しました。

講演は『やれる理由こそが着想を生む！！－はやぶさ式思考法－』と題して、「はやぶさ」開発の苦心談や当時の欧米の探査機の状況など詳しく解説され、米宇宙航空局（NASA）との探査船の小惑星初着陸の競争など、現場でのエピソードを入れながら分かりやすく説明された。

さらに、ロケットに替わる極超音速ジェット機の開発による米国、中国、ロシアなどとの宇宙探査機の開発競争のなか、日本が立ち遅れている現状や、日本人気質からくる生真面目さや完璧主義でありがちな故に、新しいページを開くことへの勇気のなさや躊躇しがちな面、困難さを指摘されました。

また「一番乗り」であることの重要性を強調するなかで、「世界初」を目指して技術を磨いた結果、あの「はやぶさ」の帰還がなされたことを説明され、「どうしたらできるのか、やれるのか」そのことに積極的に答えをみつけていくことこそが前進につながると。

重ねて「見えるものはみな過去のもの。見えていない未来を探していかななくてはならない」など科学技術や宇宙航空の開発に対する心構え・体制づくりの必要性などを話された。

講演の最後には、「はやぶさ2」プロジェクトの話もされ、次世代へのバトンタッチの必要性、重要性和新たなことを生み出すための心構えを、「やれる理由を見つけて挑戦しなければ成果は得られない」と語られました。



「『できない』ではなく、『できるかもしれない』という発想じゃないと、イノベーション（変革）は起きない」と訴えられた川口淳一郎氏